

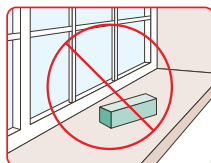
デュピクセント®

皮下注200mg/300mgペンの使用方法

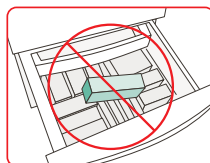
監修 | いがらし皮膚科東五反田 院長 五十嵐 敦之 先生

1 注射器の保管

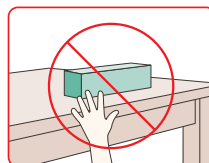
- ☑ 注射器は箱に入れたまますぐに冷蔵庫に入れ、2～8℃で保管する
- ☑ 注射液が凍ってしまう可能性があるため、チルド室、野菜室、冷蔵室の冷気の吹き出し口付近で保管しない



高温、直射日光にさらさないでください。



冷凍庫には入れないでください。



お子さまの手の届かないところに置いてください。

⚠ 注意 ● 注射器は、振ったり、温めたり、凍らせたりしないこと

2 注射前の準備

- ☑ 箱を冷蔵庫から取り出す
- ☑ 注射器を箱から取り出し、ラベル表側を見て「デュピクセント皮下注300mgペン」もしくは「デュピクセント皮下注200mgペン」であることを確認する
- ☑ ラベル裏側を見て、使用期限が切れていないことを確認する
- ☑ 確認窓から、注射液が無色または薄い黄色で、濁っていないことを確認する
- ☑ 注射器を平らな場所に200mgペンの場合は30分以上、300mgペンの場合は45分以上置き、室温に戻す

ラベル表側



確認窓

ラベルを確認する

ラベル裏側



確認窓

使用期限

※イラストは300mgペンのものです、200mgペンは黄色を基調としています。

- ⚠ 注意 ● 使用期限が切れている場合は使用しないこと
- 固いところに落としたり、破損があったり、針キャップが紛失またはしっかり取り付けられていなかったりする注射器は使用しないこと
- 確認窓から見て、注射液が本来の色（無色または薄い黄色）と違うまたは濁っている場合、注射液中に粒子などがみられる場合は使用しないこと
- 冷蔵庫から出した後は長時間放置しないこと
- 確認窓が黄色い場合は使用しないこと
- 注射の準備が整うまで、キャップを外さないこと

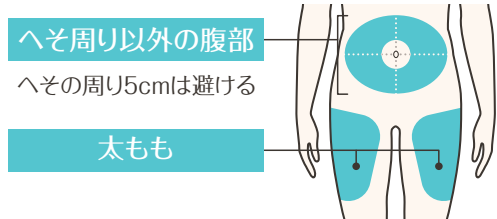
ご自身で注射される場合はこのまま右ページの③～⑥を、ご家族が注射される場合は裏面の③～⑥をご参照ください

ご自身による在宅自己注射の手順

3 注射する部位を選び、消毒する

注射に適した部位は、へそ周り以外の腹部、
太もも(右図参照)

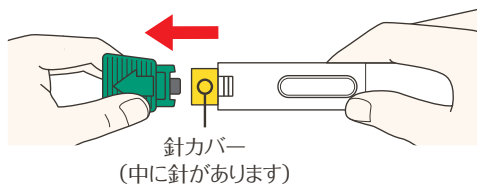
- 両手を石けんでよく洗い、清潔なタオルで手を拭いた後、消毒用アルコール綿で注射部位を消毒する
- 注射をする前に消毒した皮膚を乾かす
※消毒用アルコール綿は注射器の箱には入っていません



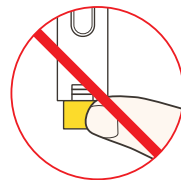
- ⚠ 注意**
- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないこと
 - 衣服の上から注射しないこと
 - アトピー性皮膚炎の症状が重い部位、痛みがある部位、けがをしている部位、打撲や傷跡のある部位はさけること
 - 前回注射した部位とは違う部位に注射すること
 - 腹部に注射する場合は、上図のように上下左右で4ヵ所に分けて前回の注射とは別の部位を選んで注射すること

4 キャップを外す

ねじらずまっすぐ引っ張る



- 注射の準備ができるまで、キャップは外さない

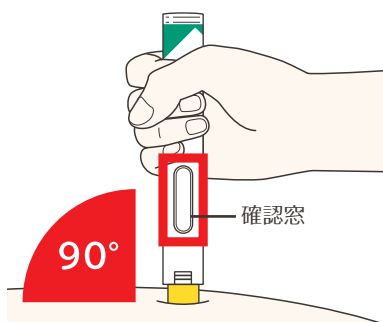


針が内部に入っているため、
針カバーを触らない

⚠ 注意

- 一度外したキャップは元に戻さないこと

5 注射部位に当てる



針カバーを注射部位に当て、
確認窓が見えるように持つ
皮膚に対して**約90度の角度**となるようにする

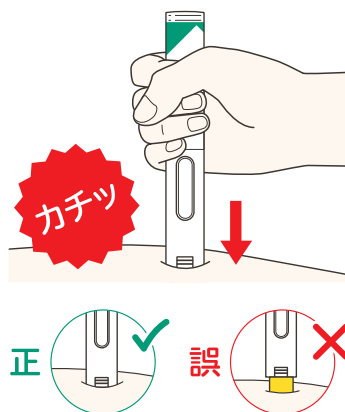
⚠ 注意

- 指で針カバーを触ったり押ししたりしないこと

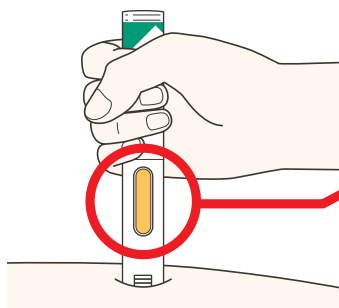
6 押し当てる

針カバーが見えなくなるまで
しっかり押し当て、そのまま動かさない

- 注入が始まると「カチッ」と音がして、確認窓が黄色に変わり始める
- 注入には、最長15秒かかる



7 しっかりと押し当てたままにする



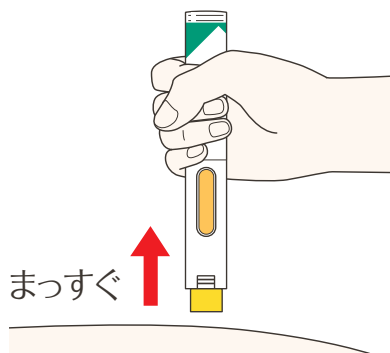
確認窓全体が
黄色に変わったら、
押し当てたまま
ゆっくり5秒数える

⚠ 注意

- 注射液は1回の注射で全量使い切り、再利用はしないこと

- 再び「カチッ」と音が聞こえる場合がある
- 確認窓全体が黄色にならない場合は、皮膚から離し、医師や看護師に連絡する。医師の許可なく2本目の注射はしない

8 皮膚から離す



- 注入が終わったら、注射器をまっすぐ持ち上げ、皮膚から離す
- 皮膚から離すのが早すぎると、薬液が漏れる場合がある
- 出血がある場合は、消毒用アルコール綿で注射部位を軽く押さえる

⚠ 注意

- 注射後、注射部位をもんだり、こすったりしないこと

ご家族による在宅自己注射の手順

※皮膚及び皮下組織の薄い患者(例えば2歳未満の患者)に投与する際にはペン製剤は用いずシリンジ製剤をご使用ください ※200mgペンの針カバーはオレンジ色です ※イラストは300mgペンのものです

3 注射する部位を選び、消毒する

注射に適した部位は、上腕部(二の腕)の外側、へそ周り以外の腹部、太もも(右図参照)

- 両手を石けんでよく洗い、清潔なタオルで手を拭いた後、消毒用アルコール綿で注射部位を消毒する
- 注射をする前に消毒した皮膚を乾かす
※消毒用アルコール綿は注射器の箱には入っていません

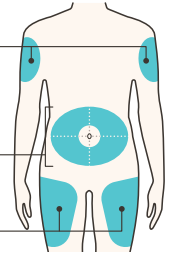
上腕部(二の腕)の外側

ご家族が患者さんに注射する場合は、上腕部(二の腕)に注射することも可能です。

へそ周り以外の腹部

へその周り5cmは避ける

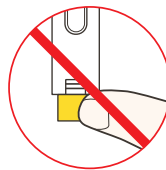
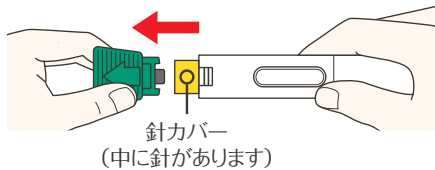
太もも



- ⚠ 注意**
- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないこと
 - 衣服の上から注射しないこと
 - 12歳未満のお子さまへの注射は、ご家族が行うこと
 - アトピー性皮膚炎の症状が重い部位、痛みがある部位、けがをしている部位、打撲や傷跡のある部位はさけること
 - 前回注射した部位とは違う部位に注射すること
 - 腹部に注射する場合は、上図のように上下左右で4ヵ所に分けて前回の注射とは別の部位を選んで注射すること

4 キャップを外す

ねじらずまっすぐ引っ張る



針が内部に入っているため、**針カバーを触らない**

- 注射の準備ができるまで、キャップは外さない

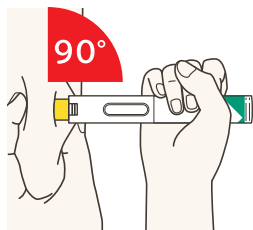
⚠ 注意

- 一度外したキャップは元に戻さないこと

5 注射部位に当てる

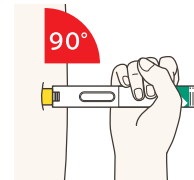
〈12歳未満の小児の患者さんに使用する場合〉

皮膚をつまんだ状態で
針カバーを注射部位に当て、
確認窓が見えるように持つ
皮膚に対して**約90度の角度**
となるようにする



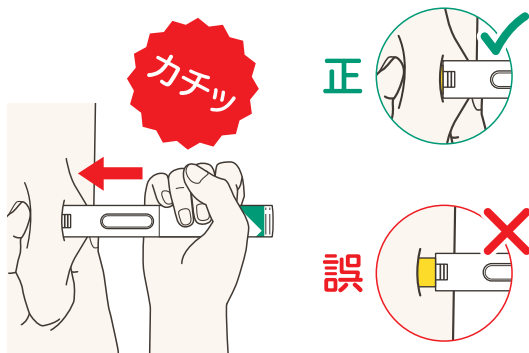
⚠ 注意

- 針が入っているため、指で針カバーを触ったり、押したりしないこと
- 12歳未満の小児の患者さんに使用する場合は皮膚をつまんだ状態で注射すること



- 12歳以上の患者さんでは皮膚をつままずに注射が可能

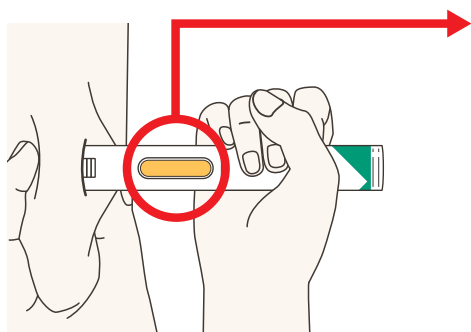
6 押し当てる



針カバーが
見えなくなるまで
しっかり押し当て、
そのまま動かさない

- 注入が始まると「カチッ」と音がして、確認窓が黄色に変わり始める
- 皮膚をつまんだ手は注入中も離さない
- 注入には、最長15秒かかる

7 しっかりと押し当てたままにする



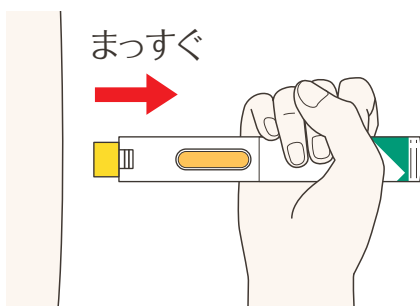
確認窓全体が
黄色に変わったら、
押し当てたまま
ゆっくり5秒数える

- 再び「カチッ」と音が聞こえる場合がある
- 確認窓全体が黄色にならない場合は、皮膚から離し、医師や看護師に連絡する。医師の許可なく2本目の注射はしない

⚠ 注意

- 注射液は1回の注射で全量使い切り、再利用はしないこと

8 皮膚から離す



- 注入が終わったことを確認し、皮膚をつまんだ手を離す
- 注射器をまっすぐに持ち上げ、皮膚から離す
- 皮膚から離すのが早すぎると、薬液が漏れる場合がある
- 出血がある場合は、消毒用アルコール綿で注射部位を軽く押さえる

⚠ 注意

- 注射後、注射部位をもんだり、こすったりしないこと

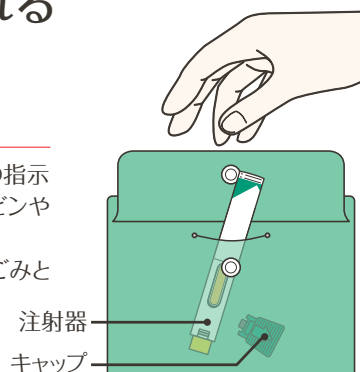
注射器の廃棄方法

9 注射器とキャップを廃棄用容器に入れる

キャップは外したまま 廃棄用容器に入れる

⚠ 注意

- 使用済みの注射器とキャップは、速やかに廃棄用容器に収納し、医療機関の指示に従って医療廃棄物として廃棄する（廃棄用容器がない場合は、蓋つきのビンや缶などの固い容器でも代用可能）
- 使用済みの消毒用アルコール綿は、各市区町村の収集方法に従って家庭ごみとして捨てること
- 廃棄用容器は、お子さまの手の届かないところに保管すること
- 廃棄用容器は再利用しないこと



? よくあるご質問

Q1 注射予定日に注射するのを忘れてしまいました。どうすればよいですか？	A1 主治医に連絡し、主治医の指示に従ってください。
Q2 指示された本数よりも、多く注射してしまいました。どうすればよいですか？	A2 すぐに主治医に連絡し、主治医の指示に従ってください。
Q3 デュピクセント®と一緒に他の薬も処方されました。使ってもよいのでしょうか？	A3 処方されている塗り薬や飲み薬、吸入薬などは指示された通りに使用しましょう。自己判断で中止しないでください。
Q4 何時ぐらいに注射するのがよいのでしょうか？	A4 注射時間に特に決まりはありません。ご都合のよい時間帯に注射してください。
Q5 体調が悪いのですが、予定通りに注射しても大丈夫でしょうか？	A5 自己判断はしないで主治医に連絡し、主治医の指示に従ってください。
Q6 注射予定日に旅行や出張が重なってしまいました。どうしたらよいですか？	A6 注射予定日に外泊することが分かったら、あらかじめ主治医に相談してください。
Q7 注射が痛いのですが、痛みをやわらげる方法がありますか？	A7 注射液が冷たすぎると痛みを感じやすくなるため、しっかりと室温に戻してから注射してください。注射器は、200mgベンの場合は注射の30分以上前、300mgベンの場合は注射の45分以上前に冷蔵庫から取り出しておきます。痛みが続く場合は主治医に相談してください。

デュピクセント®の操作方法と医療費助成制度へのご質問は、デュピクセント®相談室までお問い合わせください

専任
スタッフが
対応します

デュピクセント®相談室

フリーダイヤル



0120-50-4970

ゴ ヨ ク ナ レ

1

操作方法へのご質問
24時間365日

2

医療費助成制度へのご質問
平日・土
(日・祝休み) 9:00~21:00

※2でご提供するサービスは医療費助成制度をもととした医療費の目安をご案内するもので、医療行為や治療内容に関するご相談に対応するものではありません。また、医療費助成については自治体ごとに異なりますので、お住まいの市区町村へお問い合わせください。

※デュピクセント®相談室では、応対品質の向上を目的として通話を録音しています。あらかじめご了承ください。

サノフィ株式会社

〒163-1488
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

リジェネロン・ジャパン株式会社

〒105-5518
東京都港区虎ノ門二丁目6番1号